



後援会 だより Vol.19

【安心できるまちづくり活動報告】
桶川市議会議員 山中 敏正
連絡所 ☎ 048-787-3796



令和4年10月発行



12月議会は11/29開会(予定) スマートフォンのカメラでアクセス!
<https://www.yamanaka-toshimasa.com/>

市議会について、桶川市HPから本会議のライブ中継をご覧ください。 **桶川市議会スマート中継** 検索

澄み渡る空気が心地よく感じられる今日この頃ですが、お元気で過ごしてでしょうか。令和4年第3回(9月)定例会が、8月30日から9月26日の28日間開催され、令和3年度桶川市一般会計・特別会計決算及び条例の改正に関する議案審議をおこない、全会一致で可決・認定・承認されました。令和3年度もコロナ禍の状況が続き、新しい生活様式、不要不急の外出を控えるなど行動制限を余儀なくされた状態が続いた1年でありました。本市においては、圏央道、上尾バイパスの基幹道路による交通便利性の向上や土地区画整理事業の効果もあり、人口は、ほぼ横ばいの状況が続いていましたが、平成30年1月の統計では、75歳以上の人口が初めて1万人を超え、その後も増え続け、令和4年1月の統計では、人口構成比率は、15.7%となりました。このような状況において、令和3年度桶川市の一般会計及び特別会計の決算総額は、歳入が420億2,712万8,228円、歳出は408億8,086万3,451円となり、形式収支は11億4,626万4,777円、翌年度への繰り越すべき財源を差し引いた実質収支では11億862万777円の黒字となりました。こちら一般会計歳出の主なものとして、「新型コロナワクチン接種」、「プレミアム付商品券の発行」、「子育て世帯臨時特別給付金」や「住民税非課税世帯等臨時特別給付金」などの給付を行いました。また、耐震改修に併せて施設のバリアフリー化及び老朽箇所の改修を行った「農業センター耐震改修」、「地域福祉活動センター大規模改修」、「備蓄用防災倉庫整備」や「駅東口整備」などの事業を進めてきました。現時点においてもコロナの拡大が進む可能性もありますので、くれぐれもご自愛ください。

9月議会報告【9月定例会で一般質問した内容と、皆さまからの要望に対しての活動報告をさせていただきます。】

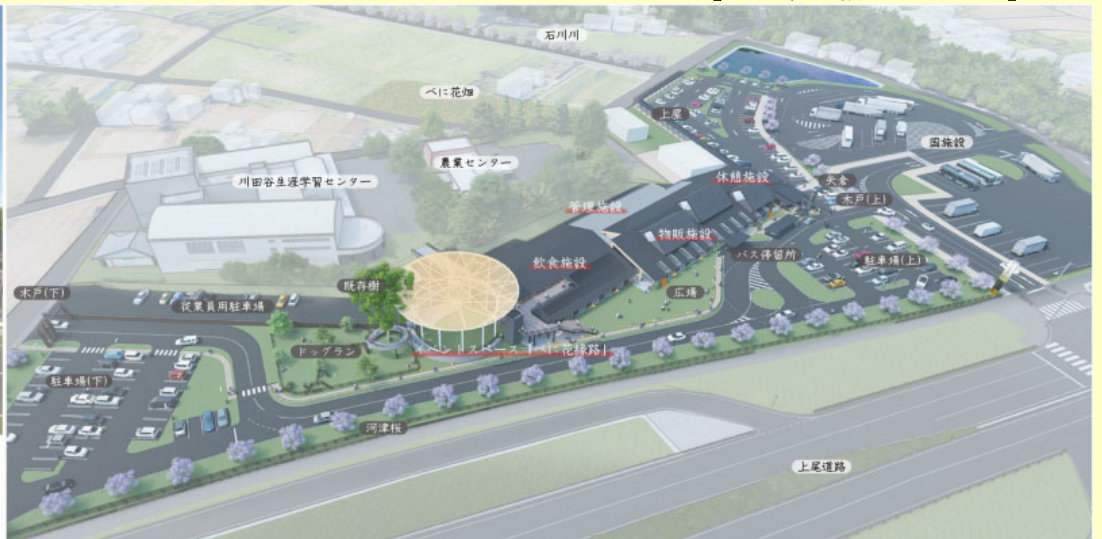
○「道の駅(仮称)おけがわ」整備事業 ◀ 「TTCグループ」の提案が最優秀提案に選定される。

令和4年8月29日(月)、桶川市道の駅整備事業者選定委員会を開催し、応募事業者による提案内容のプレゼンテーションが公開にて実施されました。これまで事業者選定に当たっては、DBO方式を採用し、公募型プロポーザルによる第一次審査、募集要項等に関する質問への回答と、第二次審査で、公募参加者との個別対話を行ってきました。今後のスケジュールとしては、選定委員会の審査結果により、優先交渉権者と協議を行い、12月に事業契約を締結し、令和7年3月の開業を目指し、整備を進めていきます。

【道の駅整備イメージ図】



地域団体と連携し祭りや民謡教室、ワークショップなどのイベントを開催。多くの人を呼び込むイベントスペース「べに花緑路」。プラタナスの既存樹を周回するスロープと接続します。様々な行事を通して新たな「つながり」や文化がここから生まれ、町全体へと広がっていく起点となります。



遊び疲れたら木陰やベンチで一休み。愛犬と一緒に楽しめる道の駅のドッグラン。愛犬が走り回る様子をスロープの上から眺めることができます。



様々なイベントで賑わう中央広場。イベント時には駐車場(上)と駐車場(下)をつなぐ車道を通行止めとし、キッチンカーや模擬店が立ち並ぶ歩行者天国とすることで広場と車道を一体的に利用できます。



各施設をつなぐ遊歩道。石川川と連続性を持たせて配置する河津桜、べに花、あじさい、南天など、季節の花木が歩行空間を彩ります。



宿場の風情を感じさせ、格子から多くの光を取り入れる連絡通路。かつての桶川宿の瓜小路のように、多くの人々で賑わい様々な縁が生まれるよう「緑路」とします。床の二二三石には「べに花」のアクセントが入ります。



「べに花」をモチーフにした間接照明が店内を華やかに演出する飲食施設。



ガラス壁や天窗により、明るく開放的な物販施設。その日の朝に採れたばかりの新鮮野菜や地元の特産が並びます。

□質問内容 Q&A 桶川市道の駅整備事業で、事業者からの提案内容についての質問を行う。

Q1. 提案事項の評価項目で、自主事業としてどのような独自提案があったのか伺う。

A1. 「TTCグループ」から自主事業について2点、ご提案がありました。1点目は、「桶川牛乳」いわゆる“桶川の生乳”を使用し、道の駅内の加工室を活用し、ソフトクリーム、パフェ、プリンなど、オリジナルのスイーツブランドを開発し、販売する提案です。2点目は、生産や加工から販売まで一貫して行うなど、地域資源のブランド化を促進し、本市の観光や物産を活用し、道の駅の運営会社を“地域商社”として事業を展開していく提案をいただきました。

Q2. 地域資源のブランド化を目指すことに対して、農地を活用して6次産業化を事業者が進めると解釈してよいのか伺う。

A2. 地域商社については、地域の多くの関係者を巻き込み、農産物などの地域資源をブランド化し、生産・加工から販売まで一貫してプロデュースしていく内容の提案です。このような事業者活動により、遊休農地の活用にも繋がっていくよう、市も事業者と協力して取り組んでいきます。

◀要望事項▶「道の駅」は、地域振興や市の活性化に繋がる拠点として活用することを目的としたものです。市内の遊休農地を活用し、地域で生産された農産物や果物の加工品販売など、地産地消への取り組みを要望する。

□中学校部活動の現状について

少子化や教員の働き方改革を背景に、国は2023～2025年度で休日の部活動から段階的な地域移行を進める方針を示しています。今後は、新しい部活動のあり方を考え、地域との連携を図りながら改革することによって、好きなことに打ち込める環境を作ることが重要です。そこで、本市における部活動の現状と課題について、そして、今後の方向性について伺いました。



□質問内容 Q&A

Q1. 指導現場では、どのようなことが課題となっているのか伺う。

A1. 教員数の減少に伴い、部活動の顧問を担うことが負担となっています。また、競技経験のない教員が部活動を担当することにより、生徒に専門的な指導が十分に行えないことなども課題であると考えています。

Q2. 外部指導員の内訳と、導入したことでの効果について伺う。

A2. 外部指導員の配置人数は、運動部22人、文化部が3人です。効果として、生徒の関心、技術の向上、その種目や活動への理解を深めることが挙げられます。

Q3. 部活動の「地域移行」に向けて、各種団体との連携や地域の人々の協力を頂き、地域に根差した部活動の運営をしていく考えのもと、登録制度を設けて持続可能な運営体制を整えては如何か伺う。

A3. スポーツ庁と文化庁より、部活動の地域移行が示されていますので、今後部活動の運営は地域移行していくものと考えています。その際には、登録制度を設けて持続可能な運営体制を整えることも視野にいれながら、まずは可能な部活動の地域移行を推進していきます。

□市民が快適で安全に住み続けられる環境の維持について

側溝など排水を使用している地域住民の皆さんが、定期的に堆積物除去や排水路の清掃及び、除草作業をおこなっていますが、高齢化が進み作業に出られない方も増えてきています。また、作業中に水路への転落事故で怪我をしたり亡くなる報道がされ、社会的な問題としても捉えられています。そこで、本市における現状と今後の対策について伺いました。



□質問内容 Q&A

Q1. 水路の維持管理で、住民からの要望は年間何件程あり、その中でも対応の多いものは何か伺う。

A1. 要望件数は、例年40～50件程あり、その中で最も多いのは水路法面などの草刈りです。

Q2. 地域の藻刈りについて、自治会等でおこなう排水路の藻刈り委託について伺う。

A2. 市内の主に市街化調整区域となりますが、13地区の自治会と「藻刈り委託契約」を締結し、地域の方々に草刈りや清掃等を実施して頂いています。委託料の総額は、1,181,580円です。

Q3. 地域の自治会から寄せられている声にはどのようなものがあるか伺う。

A3. 近年では一部の地区において、「人員が集まらない」、「作業が大変」、「高齢者には法面の作業は危険」などの声を頂いています。

Q4. 作業の危険な場所や、高齢化等により人が集まらない場所は、今後市で対応して頂けるか伺う。

A4. 関係する自治会の状況を聞きながら、今後の対応について協議させて頂きたいと考えています。

□安心できるまちづくり活動実績

□振動の解消対策／舗装の本復旧施工

●桶川市川田谷地内の県道12号線、主要地方道川越栗橋線の舗装本復旧工事をおこなったものです。こちらは朝夕の交通量も多い場所、特に大型車両が通ると振動がひどく、周辺住民の方が困っていました。施工に先立ち、現地の路面状況を確認後、空洞調査及び試掘をおこない、その調査結果に基づき、路盤の再生と3層に及び舗装の本復旧をおこなっていただく事ができました。ご対応くださった道路管理者の皆様には、感謝申し上げます。



施工前



施工後